

わかば通信



第 18 号

平成24年7月発行

東海村議会議員

越智たつや

議会報告

発行人：越智たつや後援会

日立市相賀町17-3

(日立製作所労働組合 日立支部内)

TEL 0294(26)0183

FAX 0294(26)0186

日頃のご支援に感謝申し上げます。

昨年は、震災の影響により用水路等が損壊したため、約250haもの水田において稲の作付を中止せざるを得ない状況となりました。

今夏は、農業基盤もすっかり復旧し、東海村に青々とした美しい水田の姿がよみがえりました。

これから台風や雨が多くなる季節ですが、秋の収穫に向けて黄金の稲穂が実る光景が楽しみです。

越智辰哉



▲稲の作付が可能となった東海坏土地改良区の水田

NEWS

～ 東海村行政の身近なニュースをお伝えします ～



小中学校の教室に扇風機を設置



地球温暖化による夏の猛暑傾向が続くなか、子どもたちの熱中症対策として、学校の教室に扇風機を設置する自治体が増えています。

扇風機の設置によって、教室の温度が2℃程度減少する効果があるとのことで、夏場における子どもたちの学習環境が改善されることになります。

こうした状況のなか、東海村では今年度の新規事業として扇風機設置事業（4,680 万円）を予算化しました。6 月末から、東海南中学校を皮きりに順次工事※が始まり、中学校 173 台、小学校 547 台が設置される予定です。

節電の機運が高まるなか、新たな電力を消費する機器を設置することになりますが、子どもたちの健康と快適な学習環境を第一に考えた施策ですので、住民の皆さまのご理解をお願いします。

※東海中学校は、現在プレハブ校舎であり各教室にエアコンが設置されていますので、今回の扇風機設置工事の対象外となっています。

保育施設建設のための 用地取得案が可決

平成24年6月定例会を、6月1日から6月15日までの会期で開きました。

今議会では、保育施設建設のための用地取得案や平成24年度補正予算案など9件の議案が提案されましたが、慎重審議の結果、すべての議案を原案のとおり可決しました。



▲コミセン脇への移転改築が決まった村松保育所のプレハブ園舎

「幼稚園・保育所の統合施設整備」 提案は矛盾、用地取得案に反対



今議会において、震災により被災した宿幼稚園と村松保育所とを統合した施設を整備するため、村松コミセンに隣接する茨城東病院所有の土地（約9,600㎡）を購入する案が示されました。

しかし、当地は海拔4m程度しかないので、津波発生時には村松コミセンではなく、高台にある照沼小学校を避難所に指定するという見直しを行政として決定するなか、この隣地に新たな投資をして保育所を建設することは、理論的に矛盾している、として原案に反対しました。

採決の結果、原案は賛成多数で可決となりましたが、あくまでも保育施設建設のみを目的とした用地購入案に反対したものであり、村松宿地区のまちづくりを否定するものではありません。

宅地復旧の支援策を検討すべき 住民請願を全会一致で可決

震災により、南台団地をはじめとする村内の盛土による造成宅地に甚大な被害が発生しました。

村では、崩落した法面の復旧工事や地盤調査などを実施してきましたが、このたび、国の復興交付金を活用した事業採択を受け、大規模かつ本格的な対策工事に着手する運びとなりました。

一方、被災した住民から議会に対して、個人所有の宅地復旧に対する支援を求める請願が提出されました。議会では、慎重な審議の結果、住民生活の速やかな再建と二次災害防止のためにも、村独自の支援策が必要と判断し、全会一致で住民請願を採択しました。



コミセンの機能強化を前倒しすべき

→ 防災インフラ整備は、優先度が高い事業のため、石神・中丸コミセンについても、今年度内に整備を進める

Q. 今年度から、災害対策としてコミセンの設備・機能の強化を行う予定だが、どのように進めるのか？また、計画では石神コミセン・中丸コミセンが1年先送りとされているが、緊急度の高い事業であり、前倒しすべきではないか？

A. 今年度から、災害時の避難拠点および地域住民の支援拠点として、各コミセンに9月末を目処に備蓄倉庫を設置し、その後、非常用発電機などの資機材を購入し配備する。また、井戸については、常時使用するため屋外栓を設置し、これを屋外トイレへ接続する予定であり、11月中旬までの工事期間を設定し進めている。

なお、防災インフラ強化は緊急度・優先度が高い事業であることから、石神および中丸コミセンについても、井戸の管理や日頃の利活用の方法を踏まえ、年度内に井戸の整備を進めていく。



Q. 震災から1年以上経過した現在でも、災害対策に関しては、ほとんど改善されていない。災害対策は、他の事業とは明らかに性質が異なり、緊急度・優先度が高いということを再度認識し、1日でも早い事業実施を図るべき。

A. 今の段階で、予算を確保していながら動いていないのは、怠慢と指摘されても仕方がない。今後は、緊急度・優先度が高いものについては、よりスピード感のある事業実施に向けて、改めて役場内で調整を図っていく。



保育施設建設の用地選定は矛盾

→ 想定される津波の規模であれば、安全面での対応が可能である

Q. 震災後の様々な検討により、津波発生時には基幹避難所として村松コミセンではなく照沼小学校を指定するよう見直しがなされた。

しかし、今回の提案では、村松コミセンのすぐ脇にある用地を村が買収し、ここに村松保育所と宿幼稚園とを統合した新たな保育施設を整備する案が示されている。避難所指定の見直しと今回の用地買収は、矛盾しているのではないか？

A. 津波時の避難所指定は、万一の対策として照沼小学校を避難拠点とするものであり、村松コミセンは、引き続き、通常災害時の村民支援拠点であり、その機能を担うものである。

また、最新の津波シミュレーションの結果、用地購入する土地までは被害が及ばないことを確認している。一方、想定外の場合には、原発や高レベル廃棄物を有する村としては、躊躇なく全村民避難を指示するものである。つまり、最悪のケースでは、東海村に住んでいれば高い所に住んでいてもリスクは同様である。したがって、想定される津波の規模であれば、安全面での対応が可能と判断した。

Q. 単純な矛盾に対する明確な説明が無いため、用地購入の提案は了承できない。

理想は高台移転であるが、場所が無い、費用もかけず、そして地元住民の心情にも配慮すると、現在地での建替えを提案する。





▲中丸小の入学式に参加(4/9)



▲中丸コミセンにて、地域後援会総会
および村政報告会を開催(4/15)



▲民主党地方自治体議員フォーラム全国
研修会に参加(5/9)



▲議員会研修・つくば市の国土地理院にて
(4/24)

村議会議員会(全議員で構成)の研修として、つくば市にある国土地理院を訪問しました。

国土地理院は、国土の測量や各種地形図・地勢図の作成を行う国土交通省の機関であり、昨年発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、日本の国土がどのように地殻変動したのか、詳細な分析・研究が進められていました。

また、「緊急地震速報」なども、ここで開発されたシステムだということで、自然災害への対応など、国土地理院の役割を改めて認識しました。



塙 静男さん(須和間在住)

私は、東海村に生まれ育ち、近隣の農家では名産品である干しいも作りが盛んに行われています。

一年を通して土壌作りから苗床の作成、畑の棟上げと苗植え、夏の炎天下での草取り、秋に芋を収穫し、本格的に干しいも作りが始まる冬までの保存を経て、真冬の厳しい寒さの中、作業を行い、ほぼ一年がかりで商品になります。

干しいもの出来具合は天候にも左右され、品質管理も難しいです。一朝一夕にはできるものではありません。干しいも生産農家は高齢化が進み、後継者もなかなかおりません。

今後も、村の伝統的とも言える干しいも作りが継承されるよう、越智議員にはこの豊かな東海村の自然とまちが融合された、さらなる住みよいまちづくりのために、活躍していただきたいと思います。



編集後記

先日、第74回国民体育大会(平成31年)の開催県として茨城県が内々定したことを受け、県の準備委員会が設立された新聞記事を目にした。

茨城での開催は、第29回大会以来実に45年ぶりであり、スポーツを通じた人的・物的交流を図るだけでなく、茨城の魅力をアピールする絶好の機会になると考える。

実は私自身、平成2年「福岡とびうめ国体」に愛媛県代表選手として参加したことがあり、当時開会式にご臨席された天皇陛下に大きく手を振った記憶がよみがえってきた。

7年後の県開催に向け、競技施設や宿泊施設の整備、選手の育成強化など今後の動きが楽しみであるが、自分自身も、今度は選手を迎える立場として何か役に立ちたいと思う。

<O.>